

風來六部集
六

^ 13
3682
6



門 3682
號 6
卷



序



我○たかむね風来先生○たかむね戲○たかむね筆○たかむね

採○たかむね多○たかむねく○たかむね此○たかむね小○たかむね説○たかむね世○たかむねよ○たかむね行○たかむねれ○たかむねて

く○たかむね。近世閣板の佐文○たかむね名○たかむねと

か○たかむねは○たかむねく○たかむね文意○たかむねと○たかむね質○たかむね或○たかむね、直○たかむね小○たかむね

序

風来山人と記さるる。是
皆書林智恵もかく人錢を
欲がり。謾に先生の名を
かゝる言語道筋不届
千万ちり。まづしゝえ評判

兼白髪は。藤懐先生の
作あり。筆勢頗お似れ
とも。作れる花の白ひをオグ
とし。其餘紫の朱と兼ひ
紫の苗とみざる而已とすべ。

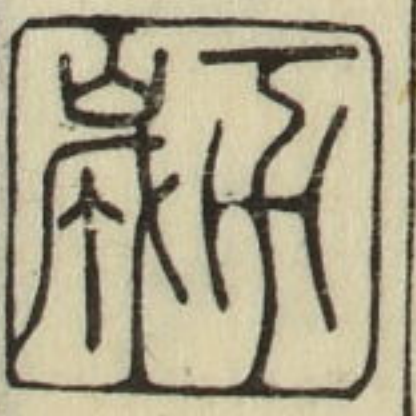
炭團たぐんと名玉なたまとかき夜
 宵よときん之のとたるものの女
 かべ今より後望と判人
 可あんと之い。先生笑て曰。
 赤飯あかひとかふて人の聲色を
 可あんと之い。先生笑て曰。

多く也也。皆みな人のの物好み也。之を自ら
 万人も目明三人も素もかたの
 後世もあれば強くと思ふも及ば
 ばいとい。其終もおやりをぬ。
 頃ま日ら書肆風堂。大場

氏三の三方三より。天狗三獨三繼三譽三
 定三縁三起三と得三て三極三木三より
 鑿三む三是三ぞ三正三真三正三銘三の
 風来先生の作あり。善三と
 惡三ひ三ハ三か三ら三ふ三さ三り三て三清三覺三

ぶ三れ三。

戲蝶謹誌



--	--	--	--	--

序

不^ふ時^ト不^ふ吹^フ哉^カ玄^ソ狗^ク風^フと
 以^ヨて。當^あて^て。玄^ソ狗^ク天^{テン}狗^ク
 孫^{そん}と^と呼^いぶ。玄^ソ狗^ク天^{テン}狗^ク子^シ。天^{テン}
 狗^ク孫^{そん}等^{トウ}。玄^ソ狗^ク天^{テン}狗^ク子^シ。

満みちのうらりあぢ号し水みづ孝こう。予まが
拾ひら得えるる骨こつ子こ。天てん狗くわう
子こ福ふく能よといひを充みし
是こ此こ款くわんひなるる世よの志の
款くわん我われ風ふう車くるま先せん生せい苦くを

探たづるるゆゆららの苦く世上じやうの
隠かくれぬく見むる子こを
祿ろく子こ人ひと多おほし。系けいも亦
古こ然しか成なり刃やいば勢せい也。鈔せうを
取とるる身み工くわう元げん以もく只持もち

ありて人際或は清いやせ
 じ。法そろ共ふ能見を其の人
 人此目をとくらまさんまえ
 ありたり
 山乃玉物なるれし

と口すさみん一塵の
 笑そひ程ぐさと一あるん。今
 書しよ林りんにこもとあるなり
 應し一あるし一あるを
 ぬ。

天狗髑髏圖

頭大廿六寸余
 鬚七寸余
 目のところ成穴一寸五分
 耳の穴二寸五分
 牙五分
 喉の穴二寸
 都一尺二寸余

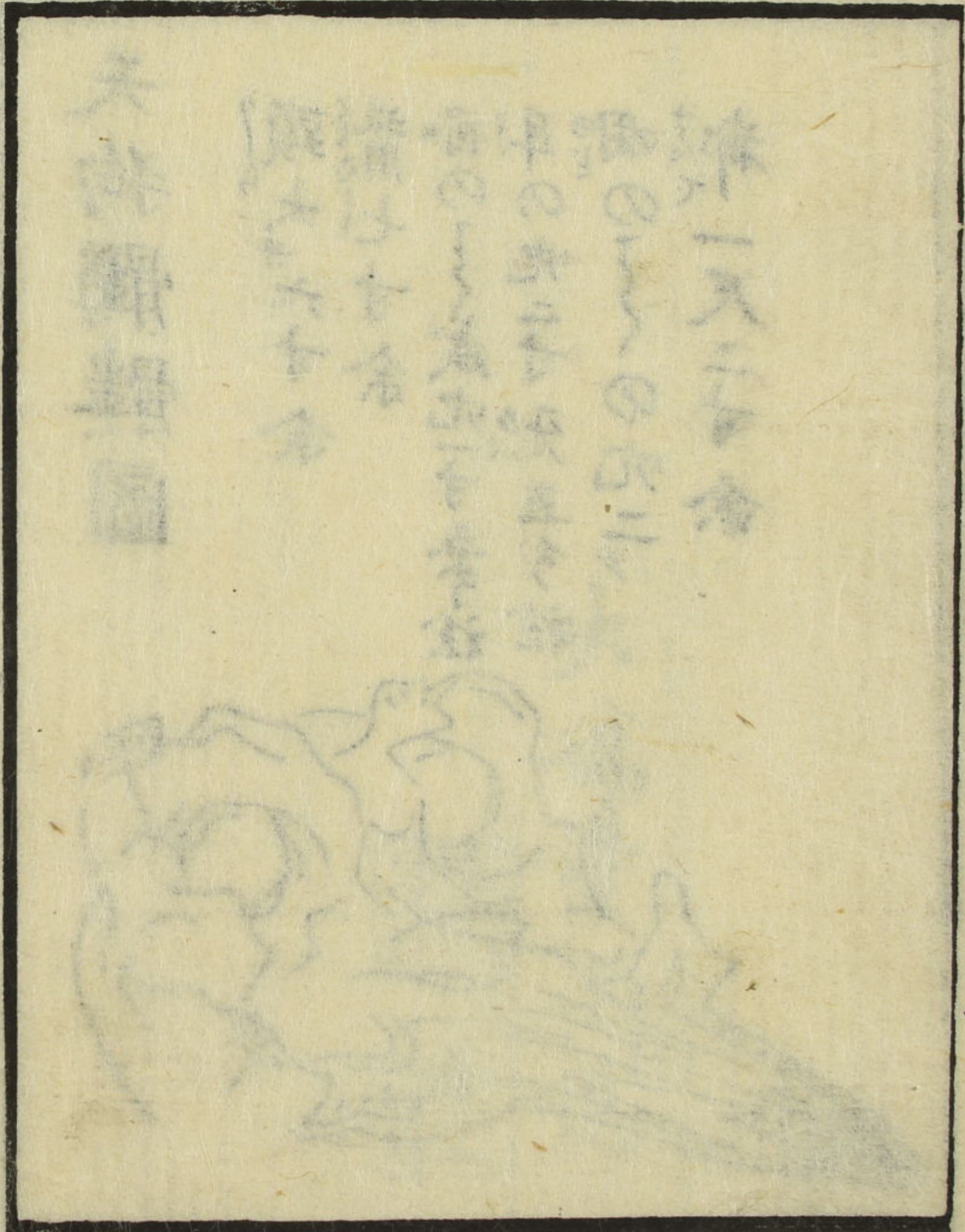


大場豊水誌



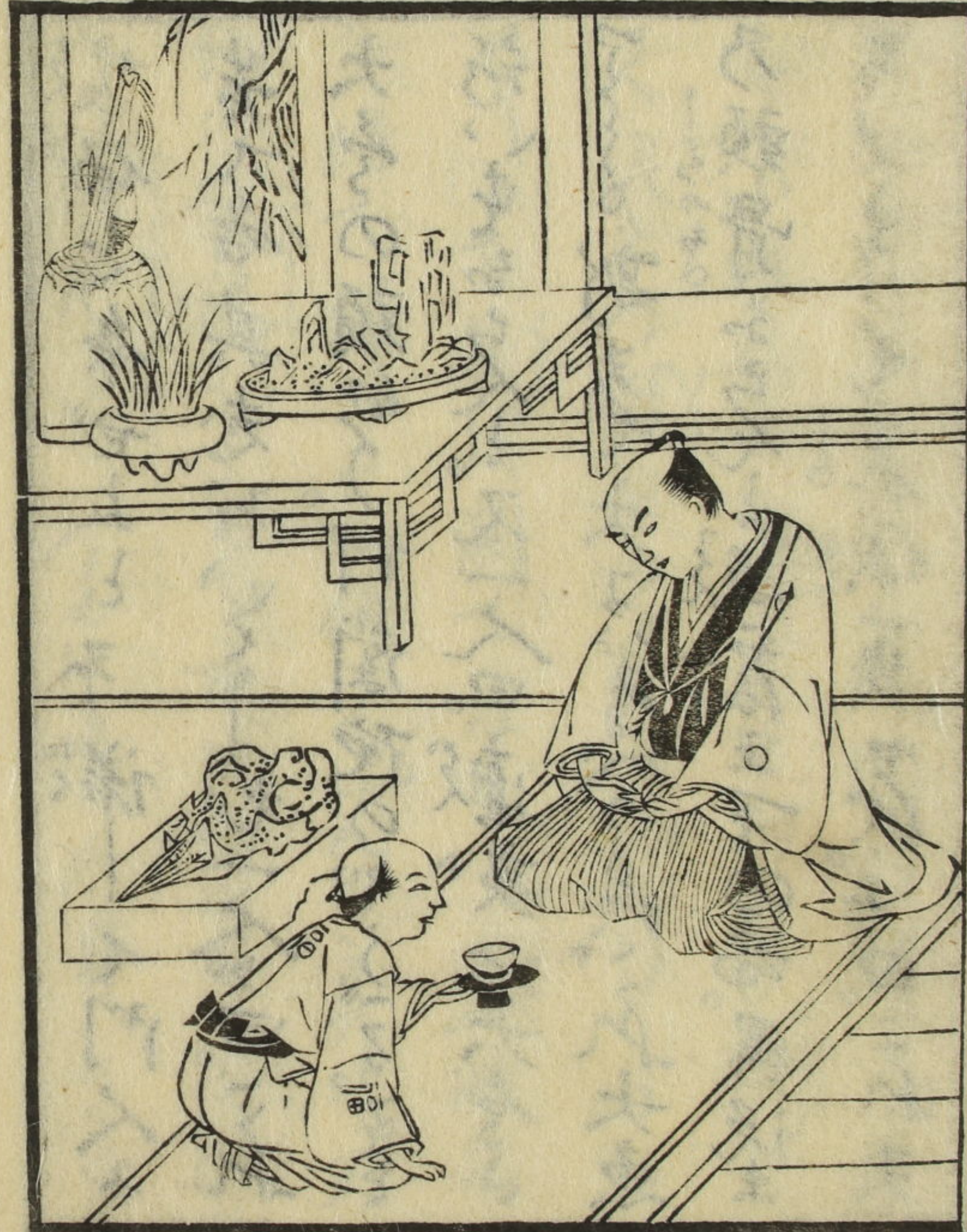
天狗躰鑒定録起

明和七の〜兼月末乃四日。門人
来りて葺物の出偽以移入。折角
一扉を叩くまの、大場豊水あり。
一乃異物を携へ来りて曰。昨夜三
狗が愛む。今朝夢きあり思ふ。子
と廿四日入り。物乃孫日色い。



芝の如き窟に訪りて。門前樹下に
喜カヤ小流に中カヤ二怪カヤ一を相カヤあう拾カヤ上
く泥土乃穢ケレを洗ケレ多し。去りくケレの物
りとして送ケレ致用て取ケレ出ケレ。よ此石
を以て淨ケレき道の通え。又ケレくケレの皆天
狗の體ケレ跡ありと云市以ケレあせとも固俗
人乃信見ケレ説とするに是ケレく人希ハケレ生

其ケレ俗を無ケレぜよと。平ケレ諾ケレ一門人子
告て各其志ケレだいで一ケレ也。一人曰。これ
大寺の頭ケレなり。何ケレ蘭院のケレなり。其ケレと
初ケレ、此ケレあらんと。又一人曰。密ケレ夷ケレ比大寺ケレと
了ケレ。斯ケレまで大ケレなるべし。其ケレ大魚
乃頭骨ケレあらんと。及ケレ度上下の海。異説ケレと
ちくりてケレ儀ケレ一変ケレヤ。平曰。これ天



狗のまゝなりきなり。所人驚て曰。是レ
倭俗乃天狗と称するまのハ全く躑
躑ミヨウ躑ミヨウと指にあらん。定れり形を
なすもつべ。於るハ今世ハ天狗を画
くに鼻高たハ心乃高慢キマ鼻ハつと
るを標サシして大天狗の容イシと。又ウチ鬚
ハ也たハ。馱ダ口クと利キて差出サしる木

の義天狗溝ミ飛ト天狗乃形状多シ。翅ハ
ありて草鞋チを履キハ。飛ト毛モ一つ也
行ユキも出る自由小がさる。松乃梢サ子シ任
居イす人ニも。店タナ賃チ出デき者モノ。横ヨコ者モノ
羽ウ扇セハ。毛モの入イをコ。とよトヨ洛ラク者モノ
強ツヨク也ナリ。其ソノ皆ナニ画エ工カ乃思シひ付ツく。実
不フ也ナリ。此コノ物モノ何ナニなるか。聖人セイジンも

怪力亂神を話すと丁氏の玉へ。満
是埃天狗此弱穢之とわ我く次欺れ
り名。予曰。諸子此疑之の理れま不
ら次。去をのう。か微意を悟すんハ
はくバ後ノ聞えん。古人乃曰。薬を賣
るものハ两眼。茶を用る者ハ一眼。茶以
眼をみる者ハ無眼とハ之と昔ハ留今

時の醫者といふハ。武士の子を其情弱
者。百姓の外をハ疎懶者。町人外をハ高
けり。或人の外をハ無意用者。其糊口
を著るもの醫者。其を著るものといふ。
之れを予て。ても醫者といふ。下ノ毎
ア此長羽穢。ア之と所あり申え。茶
乃事ハ陳皮も之。長茶も之。路を

踏ふみえ出いるもとらだらけが醫者
 ざらけ。菜種なづなも盲めくら醫者いしやもめくら。
 病家びやうかに盲めくら育うぬ。臭くさ橘たちを枳は殼ことく
 鼠ねずみ麴こ草くさは花はなとく。鯨くじら乃なり牙はをく
小かうくし。氣き蟄ひは塵ち舌しとく。翻ひ
 白菜ばいさいと柴さい胡ことん湯とう。廣くわん東とう人じん參じんは
 人じん參じんと思おもふ。其その外ほか千せん變べん萬まん化くわ乃なり大

間ま遠とほ。されとる浮う世よ共とも盲めくら子こ人じんとく
 らんの菜なはもくらん病びやうが買か習じゆある
 へ。是このを賣うまの家か蔵ざんは建たて。れを用
 るもの四よ枚まい肩かたは多おほし。山やま色いろを吞の者もの往むか
 生なま乃なり素す懐わいはとげれとく。恨うらみみをせぬ
 ば氣きの毒どくふとを思おもふ。嗚な呼こ呼こ死し
 う形かたち文ぶん盲めくらあるれ。予われを憂うれふ薬

物比真偽を正す。世上乃醫者の目
或明人とて千辛万苦をせんばあら
る心不引あくる山をくれば取沙汰。若者
の水或樂。仁者ハ山を樂。后稷ハ農以
教之。禹王も水を治む。過ぐるをそと
ぬき。是さらば補六聖人乃いささし
なり。山のや高き山は羊。鰻鱺ともか

らぐ朽果外は。暮菰とも甘藷とも
昔ひ奴等が口は端よかる浮世に
産れ来る。牛乃糞中。胡麻味噌や
ら。屋みらるちや此流浚海參此尻
す路中。蟹の望中。横道やら。お
が。か。お。う。へ。と。ち。う。あ。ぶ。こ。ご。残。り。る。ま。の。い
利口もアスえ。出る杭は折るおひ。天物

乃つて此れ其俗を論じ。時世福セ
バ腹が痛く。口が重れ。店賃が一月
が延れば破^{しち}る流る。儒者、本田に
此通る者哉とて。堯舜の民と
志めん。賢女西夫^{まみ}見えんと。女
中屋此二階^{うき}。浮澤^{うき}は。蟻^{あき}蟻^{あき}
蟻^{あき}松^{しょう}以^て。我子似よとて。子^こが

動と止との文字、今も馬めが
合点してさね。世話やが。け
れづも。腹へといふ薬^{いさよのち}。人命^{じんめい}乃
存^い之^き。あづね。ゆぬま。赤目
引^ひ。某時珍^{あま}。か。一
答^{こた}せ。ど。み。吞^の。傳^{つた}
目^めを。毒^{どく}。

まのくろ茶も。何れお茶とも
あつされば。諸人自其して天狗
とつろく焼くがゆらば。其波を揚
その醜とまきまて。天狗をすくが
卓見あり。そのうへ遠目乃蚕虱と
悉ハフんそさんだ。あして天地の廣
大なる萬物に際限を以。一人の目以

心く極がけられ。善ハ終ふ画天
狗殿がお出やる。備いそのもろく
有るこそ天狗がく。よさくけさる
男ぐくあけれハ。微塵もくもあ
ともぬく。無くとく小走然の切は
み不自由も思ふぬ。只造化と
ゆる細工人乃おん持次第ぬ。若

又天物^ら何^れを死^すと根^を問^はる人^乃
る^れん^ば、^らま^う高^き勝^るる^を科^とす^ま
者^を悪^くし^んん^{。人}は^食ふ^る抗^ん
ご^うが^かい^じの^を。天^物は^我を^食ふ^を
坊^に怒^るる^{。木}乃^乃葉^をて^物を^切
と^く首^を祿^ち切^る捨^るん^{。水}
見^つけ^て拾^ひ上^り物^を人^にと^れ

皆余^所の^事あり^{。今}時^世上^に
目^が見^けた^ば。お^とふ^ふに^成る^{。其}
せ^ば亦^も思^ふく^{。其}を^けと^もが。
葉^を不^きく^{。馬}鹿^をす^る。謙^退
辞^讓ハ^間ふ^{。高}慢^がる^{。天}道^は
か^くて^{。必}憂^目小^らし

その如く、人々慎まうと云ふは、皆
尤と云ふつたぬ

天狗さく野々々で、ふいと毒れり
極や、やが通り、その如く

風来山人書

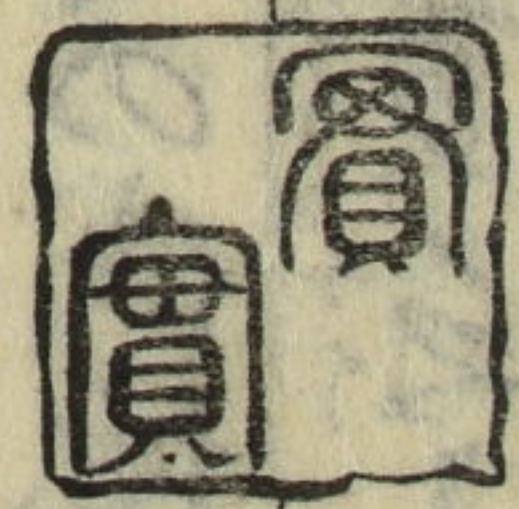
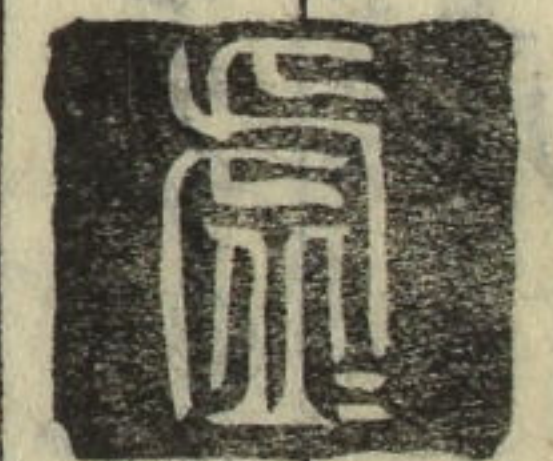
跋

天狗齋體鑒定縁起といふ不
一とせり、然り、ちし。大場豊水小
與一ありと此頃書林開板一とと。
或人見く、予小謂、予曰、嗚呼、予ら、
淡るる甚し、いふ、彼文中、鑿者、
藥店共り、盲し。陳皮も、
友

何れもや。陳皮、蜜柑の皮なり。三歳乃小兒も能是を知る。三歳以前者、世未だを也。此書行むる以前、此文を削去て世の嘲を免る。予嘗て曰。陳皮の事、神農本草經に、橘柚と云。後世二物自別なり。或、方書に、橘皮と記し。陳皮

青皮のわらあり。然るを香川氏、菜撰、謗言をいふ。古方家と稱する文盲学者も。陳皮は捨る青皮なり。陰陽造化の理、暗く。菜と志し。療治するに、坐行して、輻夫と成り。達磨の串童を勤る。

其^ま赤^あい^いち^ち申^ま極^く月^げ。借^か金^{きん}乞^ぎ不^ふ
い^いし^し訣^{けつ}の^の暇^{いそ}風^ま来^き山^{さん}人^{じん}識^し



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '山', '人', '識', '風', '来', '暇', '訣', 'い', 'し']

珍^{めづ}書^{しよ} 六^む冊^{さつ}

Handwritten musical notation on aged, yellowed paper. The notation consists of approximately 12 staves, each with a single melodic line. The ink is dark and the paper shows signs of wear and discoloration. The notation is written in a cursive style, typical of early manuscript notation. The text is oriented vertically on the page.